

公益財団法人予防医学事業中央会・環保協

「研究成果発表と意見交換による技術力の共有と向上」

「第51回予防医学技術研究会議」開催



当会理事長佐藤均の挨拶で開会(上)、グループ別の研究発表で発表する当会職員健康増進課技師 岡本沙央理(中)、同医師長 富永晃一(下)

公益財団法人予防医学事業中央会が主催する「予防医学技術研究会議」は、毎年2月頃に全国の33支部が持ち回りで開催しており、予防医学活動の推進という理念のもと、検査・健診、保健指導の導入や技術・指導における研

教育講演

会議の目玉である教育講演では、自治医科大学名誉教授・予防医学事業中央会櫻林郁之介理事長を座長とし、当協会の評議員であり、

ら放置する人が多いと指摘。精密検査の受診につながるよう、検診機関は結果通知の仕方を工夫してほしい。」と報道されました。

研究発表

情報や提言は、医療従事者にとつて大変有意義であり、今後に役立つ内容でした。

環保協職員の研究発表一覧

Table with 3 columns: 研究分野 (Research Field), 発表内容 (Presentation Content), 発表者 (Presenter). Rows include categories like 健診技術, 環境検査, メンタルヘルス, 健康支援, 検査技術, 胸部検診, 胃がん検診, 業務改善.

研究発表の座長を務めた環保協職員

Table with 3 columns: 研究分野 (Research Field), 座長 (Chairman), 氏名 (Name). Rows include 環境検査, 問診の活用, 特定保健指導.

キーワード 健診と検診の違い

健診は健康診断のことで、健康であるか確認をするために「病気の危険因子」があるか否かを見ていくものであり、特定の病気を発見していくものではありません。一方、検診は特定の病気を早期に発見し、早期に治療することを目的としています。

模の異なる機関でも同じような課題があることを共有できました。演題は研究分野ごとに2〜6題のグループに分けられ、グループの研究発表は座長によって進行されました。当協会からは右表の3人が座長として研究発表の進行と取りまとめを行いました。

に分かれ、グループの研究発表は座長によって進行されました。当協会からは右表の3人が座長として研究発表の進行と取りまとめを行いました。